

第7章 計画の評価と進行管理

1 目標値の設定

(1) 目標値設定の考え方

本計画の基本方針として掲げた「コンパクトで利便性の高い市街地形成とその連携により、地域ごとの魅力を備えた暮らしやすく、住みたくなる、行きたくなるまちづくり（を進めます。）」の実現に向けて、各誘導施策の進捗状況やその効果等について、評価・検証を行うため、誘導方針ごとに数値目標を設定し、概ね5年ごとに評価を行います。

(2) 数値目標の設定

■目標値（都市機能の集積及び居住環境の形成に関するもの）

本市の人口は、減少傾向となっていますが、誘導方針1及び2に基づき、魅力的な都市機能の集積による都市拠点・地域拠点の形成や、安全・安心に歩いて暮らすことができるまちの形成を進めることで、利便性が確保され、魅力的な市街地として、今後も維持・充実していくことにより、拠点やその周辺の市街地における居住を促進し、居住誘導区域内の人口密度を維持するとともに、都市拠点・地域拠点における生活サービス施設の維持を目指します。

また、拠点における生活機能と観光機能の両立によって、市民だけでなく来遊客にも魅力あるまちが形成されることで、観光との相乗効果も期待して、来遊客数（交流人口）の増加を目指します。

指標	基準値	目標値（2040年）
居住誘導区域内の人口密度※1	48.0人/ha (2015年)	現状維持
伊東都市拠点/宇佐美地域拠点/吉田地域拠点における都市機能のうち、生活サービス機能（商業・医療）の施設立地数※2	伊東都市拠点： 商業9/医療16 宇佐美地域拠点： 商業2/医療2 吉田地域拠点： 商業1/医療1	現状維持
年間来遊客数	662万人 (2019年度)	730万人 (2025年目標)

※1 居住誘導区域内の人口密度：都市計画基礎調査における居住誘導区域と重なる調査区（区域内外に跨る調査区は面積按分とする）の人口密度。

※2 生活サービス機能（商業・医療）の施設立地数：2021年3月末時点の集計結果に基づく。なお、医療機能については、病院、診療所、救急医療センターの施設数の合計。

■目標値達成の効果

医療・福祉・商業等の日常的なサービス施設の機能が確保され、将来にわたって生活利便性が確保されます。

また、来遊客等が多く訪れることにより、本市の活力維持が図られます。

■目標値（ネットワークに関するもの）

本市の人口は、減少傾向となっていますが、拠点形成や居住誘導と連携して、誘導方針3に基づき、拠点間・拠点内の公共交通ネットワークを強化することにより、居住地から各拠点、拠点間の移動の足として公共交通の利用を促進し、利用者数の維持を目指します。

指標	基準値	目標値（2040年）
本市の公共交通利用者数※	8,651 千人/年 (2019 年度)	現状維持

※公共交通利用者数：鉄道、路線バス（市自主運行バスを含む）、デマンド型交通、タクシーの年間利用者数。

■目標値達成の効果

公共交通サービスが維持され、公共交通の人口カバー率が増加します。

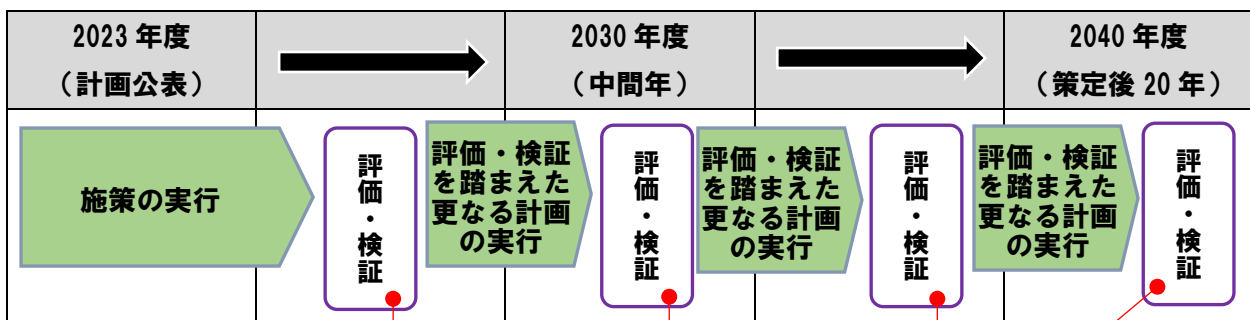
2 計画の進行管理

本市では、概ね5年ごとに、Plan（計画）-Do（実施・実行）-Check（点検・評価）-Action（処置・改善）のPDCA サイクルによる進行管理を行い、施策の実施による効果を評価し、必要に応じて見直ししながら計画を推進します。

■PDCA サイクルに基づく進行管理の考え方



■策定後の計画推進イメージ



※概ね5年ごとに
評価・検証に基づいた見直し・改善
(誘導区域、誘導施設、誘導施策、数値目標等)